

奥羽大学報



附属病院棟

目次

無垢サロン/奥羽大学の理念・目的	2
第53回欧州糖尿病学会年次学術集会/スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRIP) において研究結果を発表	3
薬学部FD研修講演会/全日本歯科学学生総合体育大会/奥羽大now	4
第1回及び第2回薬学部教育研修・講演会/第25回奥羽祭のお知らせ(学友会)	5
歯学部父兄会地域会/慶熙大学との学術国際交流/平成29年度奥羽大学避難訓練/学生ボランティア	6
キャリアガイダンス/薬学部保護者懇談会/第1回フレッシュヤーズ・カンファランス優秀発表賞(日本医療薬学会)受賞	7
薬学部就職先一覧(平成29年3月卒)/大学院研究経過発表会/研究倫理・研究不正防止に関する大学院特別研修セミナー	8
オープンキャンパス/中学校の上級学校訪問・職場体験学習	9
第26回奥羽大学公開講座/歯科医師・薬剤師体験講座	10
医療体験セミナーで歯科医師を体験/第10回アジア歯科麻酔学会/「大学教育の質保証」について全学FD・SD研修会	11
附属病院	12
自著を語る/シラバスコーナー設置/キャンパスの風景	13
歯学部研究紹介	14
薬学部研究紹介	15
マイクロRNAを網羅	16
同窓会だより/同窓生のひろば	17
人 事	18



研究の第一歩は山登りから

奥羽大学長 清野 和夫

「さあ、みんなで山に行こう。会津磐梯山に登ろう」。大学院の1年生が研究室に入って来て先ず行う行事は山登りであった。福島県の山々は奥羽山脈に連なる所で標高が高く、最高峰は燧ヶ岳（標高 2,356m）である。この山は東北地方で最も標高が高い。初心者連れに行くにはこちらが大変である。そこで、中高年の低山登山で代表的な会津磐梯山（標高 1,816m）か安達太良山（標高 1,700m）のハイキングにしている。といっても、一般的なルートを通ったのではあまりにも教育効果が薄い。この辺りの山は中高年の方々が2時間程度で登り切れるように登山道が整備されているからである。冬山は別として、庶民には登りやすい山である。

会津磐梯山のハイキングで教育効果を上げるためには、整備された登山道を避け、猪苗代スキー場側の麓から登り始める。一般ルートに比較し倍以上の時間がかかる。麓が出发点であるから、はじめは初心者でも歩きやすい。散歩でもしているかのようにどンドン歩き出す。こちらが置いて行かれるくらいのスピードである。初めのうちは何も指示しないで勝手に行動させる。先を急ぎたい気持ちからか、この先に何が待っているのか知らないためか、平地を歩くような歩の進め方をする。やがて登山道が急勾配になるにしたがい息づかいが荒くなり休憩が多くなる。ハイキングを開始してから2時間半は経過している。一般ルートに登れば、もう山頂に到達している時間である。見晴らしのいいところで山頂らしき姿がみえる。あれがゴールと思ったのか活気づいて一気に登ろうとする。その山頂に立ってみると、磐梯山の頂は遥か彼方にそびえている。ここで出る言葉が「あーあー、ここが山頂かと思ったのに」である。

このとき始めて問いかける。ここでやめればいつまで経っても山頂には行き着かない。疲れているかも知れないが一歩ずつ歩いていけば、いつかは山頂に到達する。早く到達する人もいれば、時間がかかる人もいる。それでも一歩ずつ歩いていけば必ず山頂に行き着くことができる。ここまで来てやめる者は皆無であった。やがて、全員が山頂に到着する。凍らせた缶ビールが丁度よく解凍され、アイスビール状態で乾杯する。このときの満足げな、喜びに満ちた彼らの顔が忘れられない。

これから待ち受ける幾多の難問に対しても、山登りの経験を生かして、一歩ずつ堅実に、あきらめないで研究し続けてくれることを祈りながら下山する。

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目 的

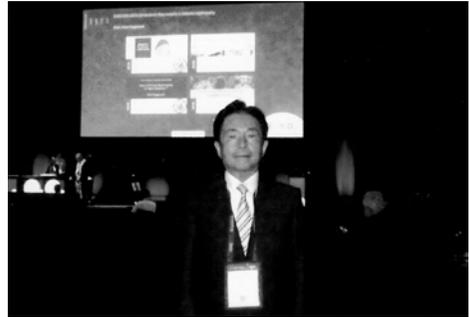
奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

第53回欧州糖尿病学会年次学術集会

53rd Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (EASD)

9月11日(月)から15日(金)にポルトガル・リスボン市で開催された第53回欧州糖尿病学会年次学術集会に口演発表してきました。演題名は和訳すると「日本人2型糖尿病患者における骨密度低下と高中性脂肪血症との関連および中性脂肪-richリポ蛋白の骨芽細胞に対する効果」です。先日(9月11日)の新聞に、本邦の糖尿病患者が約1000万人に増加したことが報じられていましたが、近年その増加する糖尿病の合併症対策が大きな課題となっています。従来糖尿病の合併症といえば心筋梗塞・脳梗塞などの動脈硬化や網膜症、腎症、神経障害が認識されてきましたが、骨粗しょう症も糖尿病合併症であることを昨年の同学会(ミュンヘン市開催)で発表しました。今年の学会では、糖尿病患者の中でも高中性脂肪血症を合併している患者では、より骨粗しょう症を起こしやすいこと、高中性脂肪血症で増加している中性脂肪-richリポ蛋白が直接に骨芽細胞に作用して骨減少を惹起していることを発表しました。これは糖尿病における高中性脂肪血症と骨減少に関する新知見であり、インパクトを与えたと思います。欧州糖尿病学会は、糖尿病研究領域では演題採択が最も厳しい学会であり、毎年200余しか口演発表に採択されませんが、その中に入ったことは誠に光栄です。共同研究者の斉藤美恵子非常勤講師、熊谷文哉助手、吉田亜沙美卒業研究学生および奥羽大学に感謝いたします。



欧州大陸の西岸に位置するポルトガル・リスボンは、雲一つない青空が続く風光明媚な街でした。イワシなど魚介類が豊富で物価も日本の半分くらいで住みやすそうという印象です。アフリカ喜望峰経由のインド航路を開拓したバスコダガマが出航したリスボンの港を見学し、ここは500年前からインド、マカオ、日本に通じていたと思うと感無量でした。1543年種子島に火縄銃を伝えたのもポルトガル人、1557年私の郷里大分市(豊後府内)に日本初の病院を創設したアルメイダ医師もポルトガル人であり、ポルトガルはわれわれ日本人にはとても縁の深い国だと思いました。

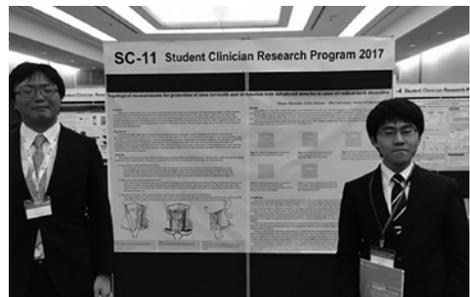
(衛藤雅昭)

スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)において研究結果を発表

8月18日(金)東京都の市ヶ谷にある日本歯科医師会館で行われた第23回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)において、歯学部第4学年の渡邊輝さんが研究成果を発表した。今年度は、全国の28歯学部から演題が出た。

発表した演題名はTopological Measurement of Ansa Cervicalis for Protection in Cases of Radical Neck Dissection。(頸神経ワナの位置測定による頸部郭清時の舌下神経軍の保護)。頭頸部における腫瘍のリンパ節転移に対して行われる頸部郭清術に際して、術後のQOL向上のために、嚥下時に働く舌骨下筋群の運動を支配する頸神経ワナを保存することを目的として様々な周囲構造物との位置関係の計測結果を発表したものの。

本学の第1学年から第4学年までに開講されている、学生自らが主体的に各科目に出向して学修するエレクトティブ・スタディー(ES)の時間などを利用して、自ら研究結果をまとめ、発表用の英文ポスターの原稿を作成するとともに、英語での発表の準備を重ねてきた。全国から集まった各大学の学生発表を見て大いに刺激を受けたようだ。この経験を基に、さらにリサーチマインドを涵養してくれるものと期待している。



発表者の渡邊輝さん(右)と共同研究者の佐久間大季さん

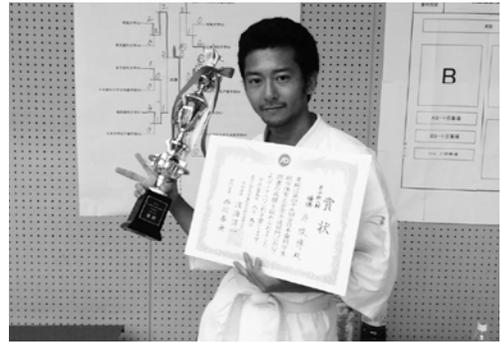
薬学部FD研修講演会

8月24日(木)午後5時30分より、薬学部棟にて平成29年度第1回薬学部FD研修講演会が開催された。今回は、慶應義塾大学薬学部の石川さと子准教授を講師にお招きし、「改訂コアカリに対応した薬学教育のあり方」と題した講演が行われた。改訂コアカリの基幹をなす学習成果基盤型教育(OBE)やOBEにおける評価の重要性、また大学教育の質的転換が求められていることなどについて詳しい説明があり、新しい実務実習を31年度に控えて大変有意義な講演であった。



全日本歯科学生総合体育大会

冬期と夏期に行われる全日本歯科学生総合体育大会(オールデンタル)の第49回大会が岡山大学の総合主管で行われた。本学は、冬期大会のラグビーフットボール、夏期大会のアーチェリー・ゴルフ・バスケットボール・フットサル・空手道・硬式庭球・陸上の8部門に出場した。結果、ラグビーフットボール部門で第5位、空手道部門で第6位と2部門において入賞することができた。OBをはじめとする周囲の多大なご助力のおかげもあり、何事もなく無事に終えることができた。



空手道新人戦優勝の歯1年原俊博さん

奥羽大now

避難指示解除の町・「方言」で元気に

—2017年8月18日 NHK総合「おはよう日本」にて全国放送—

福島県双葉郡楡葉町は、福島第1原子力発電所事による避難指示が解除されてから、9月で2年になる。現在、避難先から町に戻った住民は4分の1程度であり、地域の暮らしは元の姿を取り戻すに至っていない。そのような中、「楡葉町に伝わる独特の方言が存続の危機にある」として、地元の大学が調査に乗り出した。

2017年8月7日(月)～8日(火)の2日間、福島県双葉郡楡葉町の老年層を対象に方言談話調査が行われ、本多真史歯学部講師も共同研究者として参加した。

この調査には、「福島県相双方言の記録と継承」という目的があるが、他方、「傾聴支援」の目的もある。調査に協力してくれた女性は、「皆さんと話すことで元気になった」と調査の終わ

り頃に笑顔を見せていた。

本多真史歯学部講師は、「マイナスの心情からプラスの心情へと変化していく様子が、明確に見られた。お年寄りには話すことを非常に欲している」と話していた。(歯学部講師 本多真史)



第1回及び第2回薬学部教育研修・講演会

7月12日(水)、第1回教育研修・講演会が東北大学 CYRIC サイクロン核医学研究部研究教授関隆志先生による「東洋医学研究のあり方私論」が行われた。東洋医学はエビデンスに乏しく定量的なエビデンスが不足している一方で、千年、二千年という時間のフィルターを通して残ってきた人類の財産と言うこともできる。「言い伝え」と定量的な評価結果をあわせて検討することで、漢方薬や鍼灸治療をより有効に活用することができるとの事が講演の中で報告された。

続いて第2回は、9月27日(水)に山形大学医学部臨床腫瘍講座福井忠久先生により、がん治療で問題になっている「がん治療とオンコロジー・エマーゼンシー」について、講演が行われた。

オンコロジー・エマーゼンシーとは、がんに関連した原因で、救急対応を必要とされる致命的な状態に陥る状態である。発症後数時間～数日以内に非可逆的な臓器障害を起こし、時には多臓器不全を伴って死に至る病態を言い、がんの浸潤や遠隔転移によるもの、代謝性によるもの、がん治療に関連したものなど様々な病態がある。この講演では、がん治療とオンコロジー・エマーゼンシーの病態・治療法についての講演が行われ多くの参加者が熱心に耳を傾けていた。

(薬学部 教育研修・講演会委員長 井上忠夫)



第25回奥羽祭のお知らせ(学友会)

第25回 奥羽大学文化祭
奥羽祭
2017.10/14(土)・15(日)
【一般開放】11:00~15:30

お笑いライブ
14日◎12:00~

15日◎11:00~

道

【お問い合わせ先】 奥羽大学学祭実行委員会

10月14日(土)、15日(日)の2日間、奥羽祭が開催されます。野外特設ステージにてパフォーマンスコンテストやロック軽音楽ライブなどが予定されております。その他、2日間で6組にも及ぶ芸人たちによるお笑いライブも企画されております。是非とも足をお運びください。

野外特設ステージ	Mステ 14日◎ 11:00-12:00	純心コンテスト 14日◎ 14:00-15:00	パフォーマンスコンテスト 15日◎ 12:30-13:30	男子女性コンテスト 14日◎(18日) 15日◎(28日) 14:00-14:30
お笑いライブ	14日◎(18日) 12:00-13:00	15日◎(28日) 11:00-12:00	ピンコ大会 15日◎ 15:00-15:30	超豪華景品多数!
オープンキャンパス 個別進学相談 14日◎ 10:00-13:00	スタンプラリー	宝探し	ロック軽音楽ライブ	室内展示 ★Oポットパーク ★イラスト展示 ★救命処置体験
お笑いライブ出演者	なかやまきんに君 NON STYLE とろサーモン	三瓶	ガンバレレーザ	イチキップリン

歯学部父兄会地域会

7月2日(日)東京の大森東急REIで、7月10日(月)大阪のハートンホテル北梅田で平成29年度歯学部父兄会地域会を開催した。

両会場とも全体懇談会では、5月に開催された父兄会総会の報告や歯科医師国家試験の分析結果報告、学生生活に関する現況報告が行われた。

個別面談では学年主任と保護者が学習指導や学校生活について、活発に意見交換があり、有意義な時間を過ごした。

また、昼食懇親会では各学年が和やかな雰囲気の中、情報交換が行われた。



平成29年度奥羽大学避難訓練

いつまた起こるとも知れぬ災害に備えて、防災の日である9月1日(金)[歯学部全学年及び薬学部5年]と8日(金)[薬学部1～4年, 6年]に避難訓練を実施した。訓練は、授業中に大地震が発生したと想定し、各担当教員の指示の下、それぞれの教室から避難所までの経路を辿り、確認するものであった。6年半前の東日本大震災の激しい揺れに遭遇した教員は辛い体験を思い出しながら取り組んでいた様子であったが、一方、本学で被災した学生はすでに社会人として巣立っており、時の流れが感じられた避難訓練となった。



慶熙大学との学術国際交流

韓国の首都ソウルにある慶熙大学歯学部と本学歯学部は、1975年に姉妹校としての関係を築き、40年以上の長い歴史で交流を続けている。通常、西暦が偶数の年の夏は、本学から学生と教員数名が慶熙大学歯学部を訪れ、1週間程の学術交流を行なっている。奇数の年の夏には、逆に慶熙大学歯学部から学生や教員が本学を来訪するという形で交流を続けている。

本年度は7月29日(土)～8月1日(火)の4日間、慶熙大学歯学部から3名の教授が本学歯学部を来訪し学術交流を行なった。7月31日(月)には本学歯学部教職員を対象に、3名の教授による、それぞれの分野における最先端の研究についてイブニングセミナーが開かれ、大きな啓発に繋がった。

今回来学されたリチャード・リー・スンボク教授(慶熙大学河東病院の病院長)は、25年程前に本学歯学部で留学の経験がある。現在は韓国の歯科の学会でも非常に有名な先生であることは本学にとっても誇らしく喜ばしいことだ。

本学は、今後もこのような国際交流を大切に続け育ていきたいと考えている。



学生ボランティア

郡山市教育委員会と市内4大学が協定を結び、夏休みを中心に市内の小・中学生へ学習支援を行う学生ボランティアは今年で3年目の実施となった。本学からは薬学部の学生7名が参加した。ボランティアでは各小・中学校の教室や公民館を利用し、夏休みの課題などに取り組む生徒へ学習支援・補助を行う。小・中学生へ教える機会は、学生にとって授業では学べない貴重な経験の場となっている。

キャリアガイダンス

9月1日(金)、薬学部5年生を対象としたキャリアガイダンスを実施した。薬学生の就職活動について、(株)マイナビの講師により、就職活動スケジュールや業界による採用活動時期の違い、自己分析と仕事研究の重要性について説明があり理解を深めた。実務実習は自身の目指す将来像を見つめ直す良い機会であり、なにが自分に適しているのかを改めて考えたうえで実習に臨んでほしいと、講師よりエールが送られた。



薬学部保護者懇談会

8月5日(土)、薬学部4年生及び6年生の保護者懇談会が郡山ビューホテルにおいて開催された。6年生は38名の保護者が参加し、個別懇談会では保護者と学生の所属研究室教員との間で成績、就職などについて話し合いが行われた。続いて、6学年懇談会では、学年主任より、今年度のスケジュール、総合薬学演習IIの試験内容や国家試験合格に向けての対策の進捗状況と今後の方針について説明があった。

4年生は27名の保護者が参加された。学年懇談会では4年次の主な行事である研究室配属と薬学共用試験について説明があった。特に、CBT受験の説明に多くの時間を割き、CBT得点率と国家試験合格との関係、CBT合格に向けた大学の取り組み、

7月に実施した実力試験の結果等が示された。多くの保護者が熱心に聴講されて、勉強の取り組み方に関する質問等が寄せられた。最後に、教員と保護者との懇親会が開かれ、さらに情報交換が行われた。



第1回フレッシュャーズ・カンファランス優秀発表賞(日本医療薬学会)受賞

6月25日(日)、慶応義塾大学芝共立キャンパス(東京都港区)において、薬学部・医療薬学分野5年生の落合達也さん(早坂正孝研究室・所属)が「第1回フレッシュャーズ・カンファランス優秀発表賞(口頭発表)」を受賞した。

「フレッシュャーズ・カンファランス」とは、薬学部の学生、大学院生をはじめ、まだ研究活動の経験が少ない薬剤師や薬剤師を目指す若年層の研究マインドの醸成を促し、裾野の広い薬学領域において新たな知見を探求する薬学生および薬剤師の育成の一翼を担うことを目的として、日本医療薬学会によって開設された部門だ。演題は「末梢静脈輸液におけるCandida albicansの増殖とビオチンの影響」。内容は、カテーテル関連血流感染の原因菌の一つで罹患した際の致死率が極めて高いCandida albicansが、末梢静

脈栄養輸液中の特定の水溶性ビタミン(ビオチン)によって急速かつ顕著に増殖することを解明した。本研究成果は、臨床への栄養輸液の使用に関する注意喚起や今後の栄養輸液開発に有益な情報を供するという。



右側1番目が受賞した落合達也さん

薬学部就職先一覧(平成29年3月卒)**【病院】**

茨城県厚生農業協同組合連合会、公立岩瀬病院、大町市立大町総合病院、社会福祉法人済生会福島総合病院、財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院、全国厚生連労働組合連合会、社会医療法人将道会総合南東北病院、財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院、新潟大学附属病院、一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院、公益財団法人金森和心会針生ヶ丘病院、社会福祉法人済生会常陸大宮済生会病院、日立製作所日立総合病院、福島県厚生農業協同組合連合会、福島県立医科大学

【薬局】

株式会社アイングループ、あさか調剤薬局、アポロメディカルホールディングス株式会社、株式会社池田、いまいメディカルグループ、株式会社ウインファーマ、エスマイル株式会社、窪田薬局、株式会社ココカラファインヘルスケア、株式会社コスモファーマグループ、佐藤薬局、誠心堂薬局、武田薬局、たんぽぽ薬局、株式会社トミザワ薬局、株式会社ピノキオ薬局、ファーマライズホールディングス株式会社、株式会社福島医療サービス、有限会社みはる調剤薬局、株式会社 ライプリー

【ドラッグストア】

ウエルシア薬局株式会社、株式会社ツルハホールディングス

【その他】

福島県職員、山形県職員、久光製薬株式会社

大学院研究経過発表会

本年度の大学院研究経過発表会が9月1日(金)、附属病院棟5階臨床講義室で開催され、大学院教員及び大学院生、ほか多くの歯学部教員も参加した。この発表会は、学位研究の質的向上を目的として1993年から行われており、今回は来年度に学位論文の提出を行う9名の大学院生が現在までの研究経過を報告した。大学院教員からは質の高い学位論文を完成させるための具体的な助言が与えられた。

**研究倫理・研究不正防止に関する大学院特別研修セミナー**

文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づいて、標記の2つのセミナーが以下のように開催された。

1. 演題：医学系研究の研究倫理
 講師：東北大学大学院医学系研究科教授 浅井篤博士
 開催日時：8月4日(金)午後5時40分～午後7時
 開催場所：第2講義棟第1講義室
 参加者：大学院生・歯学部教員・薬学部教員の計173名
2. 演題：歯学教育研究・薬学教育研究における研究倫理
 講師：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授 大谷尚博士
 開催日時：9月8日(金)午後5時40分～午後7時10分
 開催場所：第2講義棟第1講義室
 参加者：大学院生・歯学部教員・薬学部教員の計172名



大谷尚博士

オープンキャンパス

7月15日(土)、8月2日(水)、8月3日(木)および9月2日(土)の4回、本学キャンパスにおいて、歯学部・薬学部オープンキャンパスを開催した。

各回、歯学部、薬学部に分かれて学部の紹介、入試説明、ミニ講義、キャンパス見学、実習体験が催された。また、学食体験と併せて個別進学相談が行われ、本学の進学を希望する参加者から入学試験や学生生活に関する具体的な質疑が交わされ、熱心に相談する参加者の姿が見られた。



ミニ講義・実習体験内容・担当スタッフ

■7月15日(土)

○歯学部

- ・ミニ講義「歯周病予防で健康長寿の延伸が可能」
高橋慶壮 教授
- ・実習体験「プラークの視察とプラークとコントロール」同上

○薬学部

- ・ミニ講義「自然の中から薬を探す(天然物化学)」
石山玄明 准教授
- ・実習体験「錠剤を作ってみよう!」
柏木良友 教授、小野哲也 講師、吉田健太郎 助教

■8月2日(水)

○歯学部

- ・ミニ講義「レーザーとは?歯科治療での応用」木村裕一 教授
- ・実習体験「歯をレーザー光で削ってみよう」同上

○薬学部

- ・ミニ講義「薬理学入門」佐藤栄作 教授
- ・実習体験「漢方薬を作ってみよう!」
早坂正孝 教授、佐藤亜希子 講師、大原宏司 助教

■8月3日(木)

○歯学部

- ・ミニ講義「インプラントを長持ちさせる口腔ケア」
関根秀志 教授
- ・実習体験「顎の模型への人工歯根、埋め込み体験!」同上

○薬学部

- ・ミニ講義「歯周病のはなし」大島光宏 教授
- ・実習体験「専門薬剤師と注射薬調剤」
井上忠夫 教授、河野晴一 教授 多根井重雄 准教授

■9月2日(土)

○歯学部

- ・ミニ講義「全国No.1の日帰り全身麻酔下歯科治療」
山崎信也 教授
- ・実習体験「心臓が止まった人への救命を実践しよう」同上

○薬学部

- ・ミニ講義「薬と病態・アルツハイマー型認知症」
関健二郎 准教授
- ・実習体験「薬化学実習」～解熱鎮痛薬の成分を合成しよう～
山岸丈洋 教授、石山玄明 准教授、金原 淳 助教

中学校の上級学校訪問・職場体験学習

中学校では「総合的な学習の時間」において上級学校訪問または職業体験学習を実施し、生徒一人一人の職業観・人生観を育む取り組みがなされている。

本学では、中学校からの依頼を受け、大学で学ぶことへの関心・意欲を高め、生徒の学習目的が達成できるよう支援している。

本年度前期の受入れは次の通り。



開催日	学校名	人数
平成 29 年 6 月 28 日(水)	郡山第二中学校 3 年生	17 名
平成 29 年 7 月 7 日(金)	安積第二中学校 3 年生	6 名
平成 29 年 9 月 8 日(金)	郡山第六中学校 2 年生	3 名
平成 29 年 9 月 14 日(木)	川内中学校 1 年生	1 名

第26回奥羽大学公開講座

本年度の公開講座は、9月2日(土)から毎週土曜日に8講座が開催された。総合テーマは昨年引き続き「奥羽大学発健康宣言2017」として、歯学部・薬学部専門分野をわかりやすく解説した。



開催日	学部	講師名	タイトル
9月2日(土)	歯学部	大橋 明石 講師	聴いて納得「う蝕」の話
		島村 和宏 教授	子どもの健口、守れていますか?
9月9日(土)	歯学部	川原 一郎 講師	2つの大震災を経験して～阪神・淡路大震災と東日本大震災～
		金 秀樹 准教授	これだけは知っておきたいお口の中の病気
9月16日(土)	薬学部	志村 紀子 准教授	放射線と健康
		佐藤 研 教授	もしかして睡眠時無呼吸症候群?
9月30日(土)	薬学部	吉田健太郎 助教	軟膏の特徴と性質
		中川 直人 教授	目薬の正しい使い方

歯科医師・薬剤師体験講座

8月4日(金)に小学生(5年生以上)・中学生のための職業体験講座を開催した。

歯科医師コース10名、薬剤師コース20名を新聞等で募集したところ、主に郡山市内在住の小中学生の応募者が多数ですぐに定員を満した。

参加した児童生徒さんらは、保護者と共に構内見学の後、歯科医師コース・薬剤師コースに分かれて実習体験を行なった。将来は薬剤師になりたいという小学校児童や、歯科医師になるという中学校生徒も参加しており、意識の高さを感じた。

本学は、今後も職業体験講座を開設し、小・中学生のキャリア学習をサポートする予定だ。



<体験講座内容>

◇歯科医師コース

「人工歯を削ってむし歯の治療を体験しよう」

山田嘉重 准教授、菊井徹哉 准教授、長崎慶太 講師、
金澤朋照 助教、山崎康彦 助教、茂呂有司 助教、内山
梨夏 助手、中條雅人 助教、高橋範之 助教、茂呂有司
助教、山崎康彦 助教 他

◇薬剤師コース

「薬剤師の仕事ミニ講座」「血圧測定体験」

「心臓の働き体験(聴診器で心音を聞く)」

高橋則男 教授、中川直人 教授、多根井重雄 准教授

医療体験セミナーで歯科医師を体験

福島県教育委員会が主催するイベント「ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業における医療体験セミナー」が9月18日(月)敬老の日に、郡山市のビッグパレットふくしま多目的ホールで開催され、本学歯学部から歯科医師体験ブースを出展した。医療職関連22の企業・団体がブースを出展した。参加者は福島県内の中学生444名で、会場は大盛況だった。

本学歯学部の歯科医師体験ブースでは、3つの体験コーナーが設けられ、約60名の中学生が熱心に参加していた。本学関係の担当者は次の通り。

「嚙む力を計ってみよう」瀬川洋 教授、大橋明石 講師
「歯科医師の仕事」木村裕一 教授、山田嘉重 准教授
「お口の中を観察してみよう」茂呂有司 助教、内山梨夏 助手



第10回アジア歯科麻酔学会

6月18日(日)、第10回アジア歯科麻酔学会がソウルで開催され、25演題の中から、本学の須田修二助教がベストプレゼンテーション賞を受けた。

- 演題名 The Immunohistochemically study of sensory nerve fibers and vessels in the jawbone for the dental anesthesiologists
- 受賞者 須田修二 助教 歯科麻酔学分野



須田修二助教(右)

「大学教育の質保証」についての全学FD・SD研修会

全学FD・SD研修会が9月22日(金)午後5時40分から、第2講義棟第1講義室で開催された。今回の研修会は「大学教育の質保証」と題するもので、学校法人東京女子医科大学理事長・学長の吉岡俊正博士が講演を行った。昨年度に日本高等教育評価機構による基準適合認定を受け、来年度には薬学部が、その後は歯学部も分野別認証評価を受ける予定の本学にとって、教育の質保証をどのようにして行っていくのか、その意義はどのようなものであるかを理解し、それを実践していくための契機となる極めて有益な研修会であった。当日は本学の教職員202名が参加した。



附属病院

第1回研修歯科医派遣式

6月29日(木)、地域医療短期研修プログラム前半組6名と地域医療長期研修プログラムを選択した3名の派遣式が行われた。派遣施設先は福島県3名、秋田県1名、宮城県1名、栃木県1名、東京都1名、大阪府2名であり、それぞれ4ヶ月と8ヶ月の研修を行うことになる。

式では9名の研修歯科医が呼名され、杉田病院長からの訓示、専任教員からプログラムの特徴と修了認定、研修心得などの伝達の後、それぞれの研修歯科医から力強い決意表明があり、出席者からの激励の拍手に見送られた。



休日・夜間時の自衛消防訓練

8月31日(木)附属病院において、宿直および日直担当歯科医師、看護師、警備員など34名が参加して休日・夜間時の自衛消防訓練が行われた。患者の避難誘導手順、4人および6人体制による担架搬送訓練を実施した。担架搬送を実際に行った歯科医師の感想は、搬送時の人間は予想よりも重いと痛感したとのことだった。参加者は、万一に備え真剣な表情で訓練に臨んでいた。



臨床教育力養成研修会

本年度の歯学部臨床教育力養成ワークショップは9月2日(土)、臨床経験2年目から7年目までの若手教員16名の参加により行われた。ディレクターの杉田俊博病院長、山森徹雄教授のほか、スーパーバイザーとして東京歯科大学から杉戸博記准教授をお招きし、チーフスタッフフォースの清野晃孝准教授の主導のもと、ワールドカフェ形式により「本学の臨床実習に大切なことは」をテーマにダイアログで良好な交流を行った。その後臨床実習における基本的臨床技能に特化したカリキュラムプランニングのプロダクトを作成、発表するなど若手教員に有意義な研修であった。



「ふれあいの像」山田良定作

自著を語る

『読解現代文必携 キーワードの卵』
本多真史 尚文出版 2017.1.21

現代の社会において、「論理的思考力は重要だ」とよく耳にする。しかし、論理的な思考を適切に展開していくとき、それを根底で支えるのは「語彙力」であると言える。

本書は、「ことばに関する能力」を高めるためのテキストである。日常的な言語活動、評論・小説を読む際に必要となることばに着目し、見出し語600（付録や解説中の関連語、対義語も含めると、約1500）の語彙を収録している。見出し語はテーマ別に配列し、漢字の字義を説明している。適宜、意味をイメージしやすいイラストも設けている。「覚えこと」と「使うこと」を意識しながら練習問題に取り組める、これまでにない画期的な1冊である。皆さんの表現力・日本語運用力を向上させるためにも、活用してほしいと願う。

（歯学部日本語学 講師 本多真史）



シラバスコーナー設置

図書館1階閲覧室（木製書架）にこのほど、「シラバス掲載図書コーナー」が初めて設置された。今年度のシラバスで指定されている歯学部、薬学部の教科書と参考書が備えられている。それぞれの書籍には、学部と学年が分かりやすいようにシールが貼られてあり、貸し出し期間は1日となっている。学生の自学自習などに幅広く役立ててほしいと、図書館員もさらなる利用を呼び掛けている。



キャンパスの
風景

『柳は緑花は紅』

記念講堂横の柳が風の通り道よろしく、秋風にゆれている。垂れ下がっている柳に風情を感じる。今年前半期の授業は終わった。後半部分もいよいよ拍車がかかる頃だ。そんなある日、たまたま撮った写真に柳の緑とサルビアの紅が一つの画に収まっていた。とっさに思いついた言葉が「柳は緑、花は紅」。花はやはり紅がいい。柳もやはり緑がいいと、自然の理（ことわり）を表している。（白黒写真で残念です）

隣の「ふれあいの像」のある池に眼を転じると、「柳の木の下のドジョウ」ならぬ鯉が勢いよく泳いでいる。約280匹。朝夕4種類の餌をたっぷりと食んで、まさにコイ三昧。「わたしも鯉になりたい」って？ 静かな平和な時間でした。（A）



歯学部研究紹介

がん細胞周囲の微小環境

口腔機能分子生物学講座口腔生化学分野 講師 鈴木 厚子

日本人の死因の第一位は、悪性新生物（以下がんとする）である。種々の新薬の開発などにより、原発がんの局所のコントロールは、発見時のステージにもよるが、かなり改善されているものの、転移や再発がんは、原発がんの性質に対して多様に変化しており、画一的な治療法はなく、未だに対応に困難を極めている。

そのようながん細胞の性質変化は遺伝子変異よりは、むしろ epigenetic な変化、つまり、遺伝子変異を伴わない遺伝子発現の変化によることが大きな原因と考えられている。この epigenetic な変化を誘導する因子として、私たちは、がん細胞周囲の微小環境、特に細胞外pHに注目している。

がん細胞は、ミトコンドリア内外の代謝酵素の変異により、エネルギー産生をクエン酸回路よりも、むしろ好気性解糖に依存する Warburg effect により特徴づけられる。この結果として、悪性腫瘍の細胞外微小環境は、酸性であることが多い。がん細胞が転移や浸潤する際には、上皮の性質から組織内を移動しやすい間葉系の性質に変化するという上皮間葉系移行 (Epithelial Mesenchymal Transition, EMT) が知られている。私たちはこの性質獲得に酸性細胞外pH(pHe)が重要な役割を担っていることを証明しました。すなわち、酸性pHeは上皮の性質を示すE-cadherinの発現を抑制し、関係細胞の性質を示す vimentin の発現や細胞外マトリックスの破壊に重要なマトリックスメタロプロテアーゼ(MMP3, MMP9)の発現を促進し、さらにインビトロでの浸潤実験系にて、酸性pHeががん細胞の浸潤能を促進することを明らかにしました (Fig) [1]。また、このような酸性pHeにより誘導される形態変化には、低分子量G蛋白質の1つである RhoA が関与していること、さらに RhoA の活性化はホスホリパーゼDの活性化を通じてMMP9の発現を誘導していることも明らかにしました [2]。最近、甘みの受容に関わる分子として知られている TRPM5が酸性pHeのシグナル伝達に関与することを明らかにし、TRPM5の阻害剤であるトリフェニルホスフィノキシド (TPPO) の投与により、マウスにおける自然転移を抑制することを見出しました。臨床データにおいてメラノーマや胃癌ではTRPM5発現の高い症例ほど生存率が低いことも明らかにし、がん細胞の悪性形質発現における酸性pHeの重要性を明らかにするとともに、酸性pHeの細胞内シグナルは、転移抑制を目的とした治療のターゲットとして有効であることを証明しました [3]。

現在、細胞外環境の重要な因子として細胞外マトリックスであるオステオネクチンに注目し、がんの再発に重要な役割を示すと考えられている癌幹細胞の維持との関連性で研究を進めている。

これらの研究は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤C）の補助により行われている。

[1] Suzuki et al. Cancer Cell International 2014, 14:129

[2] Maeda et al. International Journal of Oncology 48: 1251-1257, 2016

[3] Maeda et al. Oncotarget, in press.

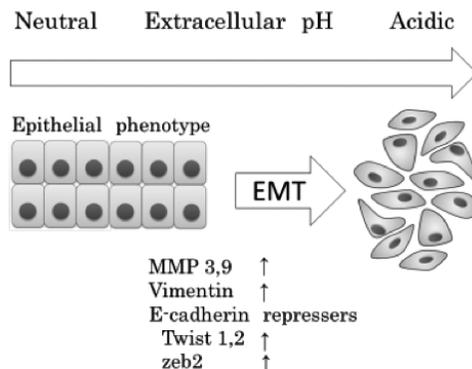


Fig) Epithelial Mesenchymal Transition

薬学部研究紹介

自分の運命は祖先に握られている？環境要因による獲得形質の遺伝機構解明に向けて
 —Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD) 学説の検証—

生物・衛生化学分野 助教 横田 理

環境化学物質や栄養不良などの環境ストレスに曝露される機会が増加している現代社会。妊娠期に環境ストレスが過剰に作用すると、お腹の中にいた子どもは、将来、生活習慣病の罹患率が増悪化するという DOHaD 学説が提唱されている。

私は、大気汚染物質である超微小粒子（粒子径 100 nm）をマウス妊娠期に曝露すると、産仔の行動に影響が起ることを国内外で最初に発見した。特に、衝動性や攻撃性の上昇、不安惹起、学習障害など様々な知見を明らかにしてきた。また、行動異常と関連する脳内モノアミン神経系の攪乱、さらには、アルツハイマー病様の病理所見とその前段階に起こるコリン神経系の脱落も観察した。これらの結果は、妊娠期環境が出生後の脳神経機能を攪乱するメカニズムの一端を示したものである。

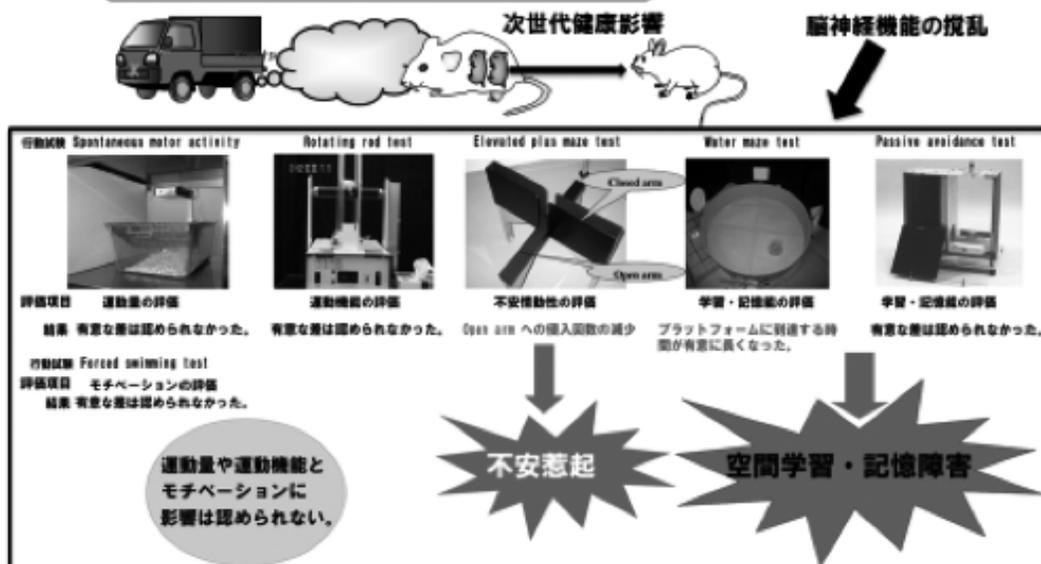
一方最近、息子が生まれた私の立場として、父から子への次世代影響にも関心が向いている。生殖細胞である、“精子”と“卵”が出会うことで個体が発生するが、この生殖細胞に生じた障害が後世に遺伝するとしたら、それは、祖先の生殖細胞が子どもの生涯を決定づけるということになる。しかし、その詳細は全く分かっていない。現在、環境ストレス曝露により生じる雄性生殖細胞系列の遺伝情報の変化が、次世代の脳神経発達にどのようなプログラム異常を引き起こすのか、衛生学、毒性学、細胞生物学、行動科学の見地から評価を進めている。

これらの研究は、日本学術振興会若手研究の助成、公益財団法人上原記念生命科学財団研究奨励金、日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金の支援を受けて行っている。

その他、私はビタミンAの作用にとっても魅力を感じており、ビタミンAを利用して精子形成に関する細胞生物学的な基礎研究にも精力的に取り組んでいる。

父親／母親が受けたダメージが子どもにも継承されるのか？

非意図的ナノ粒子：大気環境由来の超微小粒子



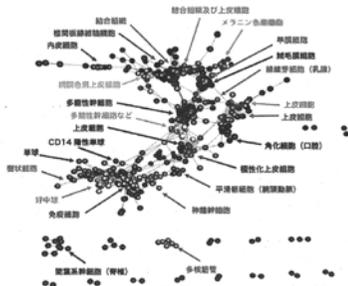
マイクロRNAを網羅

このたび、理化学研究所FANTOM5プロジェクト3本目のメンバーとなるマイクロRNA (miRNA) をカタログ化した論文がNature Biotechnologyに掲載された。これにより、正常状態ではどの細胞がどのmiRNAをどの程度発現しているのかがすぐに検索でき、疾患に関連するmiRNAの研究もさらに加速すると思われる。

理研のプレスリリースは、http://www.riken.jp/pr/press/2017/20170822_1/に掲載されており、この中の「miRNA発現アトラス」をクリックするとデータベースにつながる。Toolのうち、いちばん下のheatmapをクリックすると、ひと目miRNAの全貌がわかる優れた構成となっている。新聞記事にも書かれているように、miRNA阻害剤による歯周炎治療薬がまた一歩現実に近いと思う。

(薬学部・大島光宏)

遺伝子の働きを調節



ヒト初代培養細胞で発現するマイクロRNAマップ、原図はロスリン研究所、エジンバラ大学ロイヤルディック獣医学学校のキム・サマーズ教授作成

奥羽大(郡山市)の大島光宏薬学部教授(59)が参画する国際研究プロジェクト「FANTOM5コンソーシアム」は数千種類あり、



大島光宏教授

奥羽大・大島教授ら

マイクロRNAを網羅

Q マイクロRNA DNAによく似たリボ核酸(RNA)でできた微小な生体分子の一つで、細胞の中で遺伝子の働きを調節するなどしている。人では2500種類以上が見つかっている。細胞内で合成されたマイクロRNAはその細胞の遺伝子の働きを調節するほか、「エクソソーム」という小さな袋によって血中に分泌される場合もある。

さまざまな遺伝子の働きを調節するリボ核酸「マイクロRNA」を網羅的にまとめたデータベースを作った。マイクロRNAはがんの早期発見に活用されるなど注目が集まっている。大島教授はDNAからたんぱく質をつくり出す調節過程が分かる貴重な技術情報源と評価、今後、歯周炎治療研究に生かしていきたい考えだ。

研究チームは独自の測定法を用い、これまでの報告では得られていなかった精密で詳細な分類を成功させた。研究成果は8月下旬、英科学誌「ネイチャーバイオテクノロジー」電子版で発表された。

多様な働きをするマイクロRNAを検索できるデータベースはさまざまな研究の後押しとなり、大島教授は「マイクロRNA研究の基盤として個々の役割の解明だけではなく、疾患との関連解析を加速させるだろう」と期待感を示す。

研究プロジェクトは理化学研究所(横浜市)などが主宰。マイクロRNAはさまざまな細胞の中にあり、細胞の分化や発生などの生命現象に関与する。複数のマイクロRNAががん化を促進したり、抑制したりすることが報告されており、

大島教授は「DNAからたんぱく質をつくり出す際の調整過程が分かる貴重な情報源」と述べ、歯周炎研究に積極的に生かしていきたいとしている。

マイクロRNAの働きと疾患との関係を解明すべく多くの研究者が研究に取り組んでいるという。今回作られたデータベースはどの細胞からどういったマイクロRNAが発現したかを記載したマップ(地図)としてまとめられている。

同窓会だより

加藤 崇(神奈川県支部専務理事歯学部12期生)

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

神奈川県支部の近況をご報告いたします。当支部は7期生の鹿郷満保支部長以下約80名の会員が県内にて地域医療に貢献しております。歯科医師会におきましては、本年7月より鹿郷満保支部長が保土ヶ谷区歯科医師会、6期生の沼田謙一郎先生が逗葉歯科医師会の会長に就任いたしました。また、多数の先生方が県、地域の歯科医師会の委員・役員に就任され活躍しております。特に、国保連合会審査委員には私を含め3人が選任され、研修会開催や個別指導対策等を行い、医療保険に強い支部を目指しております。また、学術研修会では、母校の教授陣を講師にお招きし、臨床に即した講演をお願いし好評を得ました。特に本県出身の22期生の宇佐美晶信教授には大震災の検視活動を報告して頂き、歯科における災害対策の重要性を再確認しました。

さて本年4月、平成24年に神奈川県歯科大学放射線学講座教授に就任された11期生の櫻井孝先生が神奈川県歯科大学の学長に大抜擢されました。7月には横浜市内において神奈川県歯科大学同窓会との共催により、祝賀会を開催しました。当日は来賓として清野和夫学長、柳川忠廣日本歯科医師会副会長、渡辺友彦同窓会会長にお越し頂き、若き指導者に心のこもった祝辞を頂きました。県外からも東京・千葉の支部長先生や、同期生も多数駆けつけ和やかな雰囲気の中、盛大に執り行われました。

毎年開催される各歯科大学同窓・校友会懇親懇話会では他大学の先生方と同窓会の現状や将来について議論しますが、若い先生方の同窓会離れには皆さん頭を痛めているようです。当支部も初年度の年会費や懇親会の費用を無料にしたり、経営・労務の研修会を開催したりと妙案を模索している最中です。これからは他支部・同期会等の連携を密にとり、同窓会を益々盛り上げていきたいと日々考えています。

同窓生のひろば



狩野 敦史(歯学部6期生)

同窓生の皆様、こんにちは。58年卒の狩野です。大学卒業後、歯科保存学講座に残って後輩達の指導にあたっておりました。大学の教員が性に合い、楽しく過ごしておりましたが、諸般の事情により数年で退職し、平成元年11月より郷里の岩手県に帰り現在地で歯科医院を開院しております。

開業当時は歯科医師も少なく一日に何十人もの患者さんを診ていました。一日いっぱい休み無く働いて、夜は会議と飲み会、日曜はゴルフに野球、そんな生活を続けて40代後半で大病を患う事になってしまいました。

しばらく仕事を休み、手術や新薬の投与等の治療で小康状態をキープできるようになり、数年後の体調に余裕ができた頃、偶然引き受けた役職が県歯の警察歯科医担当理事でした。普段はそんなに忙しい部所ではないのですが、結果的に引き受けた直後に、あの東日本大震災が岩手を襲う事となりました。そこからは身元不明遺体の確認作業や照合判定に明け暮れる毎日を過ごしました。激務にも係らず不思議に体は時々悲鳴を上げながらも、なんと安定を保ってくれました。

「具合が悪くなってる暇はない」と自分に言い聞かせ、毎日のように40km離れた盛岡に身元確認作業に通いました。現在も同役を継続中であり自然災害があるたびに出勤の心構えを整えて準備しています。

現在の自分の歯科医院はスタッフも患者さんも高齢化が進み、午前中はまるでグループホームのような状態です。それはそれでバランスが保たれているのですが、将来に向けてどんな設備投資が出来るか、世代交代を視野に入れて検討しています。

開業医としての目標は「雨にも負けず、風にも負けず……」の精神にのっとり、毎日患者さんを診ること。開業医たるもの急患は断らないをモットーに日々の診療にあたっているのですが、最近では視力と聴力の低下に悩まされ、また診療に対する気力が長く続かないと、年老いた我が身を実感する日々を過ごしています。

最後になりますが、同窓生の皆様のご健康とご健勝をお祈り致します。

同窓生のひろば



田島 智有貴

(文学部日本語日本文学科8期生)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。2000年3月に大学を卒業し、気付けば17年もの月日が過ぎました。奥羽大学で学んでいた日々は遠い昔のことですが、当時の思い出は今でもはっきりと心に残っています。

自分にとって一番の思い出と言えば、やはり奥羽祭です。私は、学友会に所属し、僭越ながら当時大学祭実行委員長を務めさせていただきました。文学部だけではなく、歯学部先輩方にもとてもよくしてもらい、先輩、後輩、学部に関係なく、たくさん大切な仲間ができました。当時は、スポンサー集めで色々な企業を回ったり、お笑いライブやコンサートの交渉をしたり、パンフレットやポスターを作成したり、大変なこともたくさんありましたが、今思えば、私にとってかけがえのない大切な時間でした。

もちろん、大学祭以外でも大切な仲間と出会いました。数人で「海を見よう」と、夜中に車を走らせ、小名浜まで行ったこともあり。当時は、カーナビなどついていなかったもので、帰りに道を間違えてしまい、気付けば後戻りできないほどの山奥に迷い込んでしまったこともあり。毎日のように集まり、その日の気分で色々な場所へ出かけて、とりとめもない話をして、そんな大学生活でした。

さて、現在私は、埼玉県で小学校の教員をしています。大学を卒業して、一度一般企業に就職をしたのですが、27歳の時に高校時代の友人の誘いがきっかけで、小学校の教員免許を取得しました。教員採用試験にも無事に合格し、教員生活も12年目に入りました。一番最初に担任した子たちは、もう大学4年生です。そう思うと、やはり、年をとったということなのでしょう。個人的には、管理職を目指さずに、子どもに距離の近い担任として定年までずっと頑張っていたかかったのです。

が、年齢などの関係でそうもいかず、今年度は教務主任という立場になりました。最初は抵抗がありましたが、自分のクラスの子に深く関わる担任と違い、1年生から6年生まで広く関わることの出来る教務主任という仕事も、それはそれで悪くないかな…と思いつつ始めているところです。

今でも時々、大学時代のことを思い出します。当時の経験を子どもたちに話すこともあります。当時の私の経験が、未来を担う子どもたちの成長の一助になればと思います。

人 事

<定 年>						
大 野	敬	教	授	口腔外科学	7月23日付	
<再任用>						
大 野	敬	教	授	口腔外科学	7月24日付	
<退 職>						
前 田	恵	子	看 護 師	病 院 医 療 部	7月31日付	
永 田	志	織	歯 科 衛 生 士	〃	〃	
笹 森	広	美	助 手	成 長 発 育 歯 学	8月31日付	
興 座	崇	史	助	臨 床	9月30日付	
佐 藤	麻	里	〃	〃	〃	
畠 山	有	紀	〃	成 長 発 育 歯 学	〃	
奥 山	ひ	ば	り	助 手	薬 学 部	〃

奥羽大学報155号(通算No.280)平成29年9月30日発行
発 行 奥 羽 大 学
学 報 編 集 委 員 会
委 員 長 清 野 和 夫

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。

最大6年間
学費
フルサポート

自力進学支援型
**特待生制度の
経済支援**



歯学部 **30**名

薬学部 **30**名

奥羽大学では、地域社会に貢献できる医療人を育む取り組みとして特待生制度を整備しています。
「歯科医師・薬剤師を目指したい」「将来、医療分野で活躍したい」など
進学意欲を持ちながら経済的に不安を抱える場合でも、本学の特待生制度を有効に活用し、
自分の学力と努力で道を切り拓き、地域社会に貢献できる医療人を目指してください。

特待生制度 学費サポート

区分	特待生		一般入学生	
	入学金	500,000	500,000	200,000
授業料	0円	3,500,000	0円	1,500,000
2年次以降の金額		3,500,000		1,500,000
6年間の総額	500,000	21,500,000	200,000	9,200,000

※教科書、実習器材等は別途費用がかかります。

特待生の声



関口 静里奈さん
歯学部3年(青森県・青森県立弘前高等学校出身)
授業料免除の特待生制度なら両親の負担を減らせると
思い受験しました。奥羽大学は、国家試験を目指して先
生と学生が共に頑張っていく、そんなイメージの大学で
す。設備も授業も充実していて、信頼できる先生ばかり
です。毎日の授業を大切にできれば、部活動と勉強を両
立しながら国家試験も問題なく合格できると考えていま
す。もちろん日々の努力も欠かしません。将来は、患者さ
んから信頼される歯科医師になりたいと考えています。



野内 秀晃さん
薬学部1年(福島県・福島県立安積高等学校出身)
私が奥羽大学を志望したのは、自宅から近いというこ
とと特待生制度に魅力を感じたからです。実際に入学
をしてみると、さまざまな教授の個性的な授業がとても
楽しく、また学生約3人に1人にアドバイザーの先生が
つづき、学習のことや学生生活のことを相談できるの
で、大学生活が心配なく充実した毎日を送っています。
卒業はまだ先ですが、目標を持った仲間たちと多く
を学び、実践的な薬剤師を目指して頑張ります。

特待生選抜入学試験 入試状況

年度	学部	定員	受験者	入学者
2015	歯学部	30名	120名	28名
	薬学部	30名	78名	16名
2016	歯学部	30名	67名	23名
	薬学部	30名	51名	12名
2017	歯学部	30名	88名	25名
	薬学部	30名	96名	22名

ほぼ全員が
特待生継続中

特待生選抜入試受験者中
歯学部 約3.5人に1人
薬学部 約4.3人に1人が
特待生として入学

※特待生の継続は進級試験の成績により毎年審査を行い、最大で6年間継続することができます。



東北有数の経済都市「郡山」で医療人を育む。

奥羽大学

お問い合わせ先 企画・広報課
〒983-8511 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
TEL: 024-932-9055 FAX: 024-933-7372
E-mail: info@ohu-u.ac.jp

主要都市から郡山駅までの移動時間

新幹線利用 (郡山駅までの利用時間) 飛行機利用 (福島空港までの利用時間)
【仙台】35分【東京】77分 【札幌】80分【大阪(伊丹)】65分

奥羽大学 検索 www.ohu-u.ac.jp



私たちは、
医療人。

将来「医療」という分野の職業で生きてゆく。
たやすい気持ちで決められるような道ではない。
でも、一度きりの人生、生涯誇れる自分でいたい。
決めるまでが半分、あとはやるだけ。
そう、未来はもう、始まっている。

Innovative Future
奥羽大学

歯学部 薬学部

最大6年間
学費
フルサポート

自力進学支援型
特待生募集！
歯学部30名 薬学部30名

（お問い合わせ先 企画・広報課）〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
TEL: 024-932-9055 FAX: 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp

www.ohu-u.ac.jp